



国語一 1 2 (第 3 学年) 写真資料を用いて説明文を書く事例
【学習活動の概要】

1	単元名 発見したことを写真を使って説明する文章を書こう	
2	単元の目標 発見したことを説明するために写真などの資料を選んだり、文章とその資料とを関係付けて説明する文章を書いたりすることができる。	
3	評価規準 【国語への関心・意欲・態度】 ・見付けたことを読み手に具体的に伝えるため、写真などの資料を活用して説明する文章を書こうとしている。 【書く能力】 ・複数の写真資料の中から説明の目的や文章の種類に応じて、説明内容がより明確に伝わるものを選んでいく。 ・選んだ写真を解説したり、補足したりするなど、文章と写真などの資料とを関係付けて説明する文章を書いている。 【言語についての知識・理解・技能】 ・語句には、ものの名前、動き、様子を表すなど、性質の上での類別があることを理解している。	
4	教材 ○ 教科書の教材文 ○ 教師自作のモデル文章教材 ○ 取材カード、組立てメモ	
5	主な学習活動 (単元の指導計画 (全 8 時間))	
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 ②	①身の回りのおもしろいものについて、写真を用いて説明するモデル文章を読む。 ②「おもしろいもの」とはどのようなものかを話し合い、題材を見付ける観点を整理し、課題を設定する。 (例) いつもと違う風景、初めて気付いたこんなもの、実はこんな使い方がある、この場所ではこんなものが見られる、など	○言語活動全体の見通しをもてるようにする。 ○課題設定後に、おもしろいものを見付けてデジタルカメラで撮影する期間をとる。 ○見付けたものを、朝の会など随時報告する場を設定する。
第二次 ④	自分の身の回りのおもしろいものを、友達に写真と文章で説明しよう。 ①説明したいものとそのおもしろさを確認し、説明するのにふさわしい写真を選ぶ。 本時	○伝えたい内容と関連付けて選択できるようにする。
	 「いつもとこんなに違う」ということが伝わるように 2 枚を比べて説明したいな。	 大きさがはっきり伝わるように、一緒に人が写った写真を選んでみよう。
	◇写真を選ぶときには、 ①おもしろさが写真の「部分」に表れているのか、「全体」に表れているのかを考えてみよう。 ②おもしろさが「動き」や「変化」にあるなら、2 枚を組み合わせよう。 ◇写真を選びながら、説明する言葉を考えてみよう。	
第三次 ②	②「説明対象—具体的なおもしろさ—自分の感じたこと」という組立てで文章構成を考える。 ③「なぜおもしろいと思ったか」「どこがどのようにおもしろいのか」が伝わるように、用いる写真を解説したり、補足説明をしたりしながら文章を書く。 ④説明したい内容にふさわしいものとなるように、写真の選択の仕方を確かめたり、文章を書き直したりして推敲する。 ①書いた文章を読み合い、写真と文章から伝わってきたおもしろさを伝え合う。 ②学習活動を振り返り、学習のまとめをする。	○題材を探す→写真を選んで説明する材料を整理する→構成を考える→記述する→推敲する→交流する、といった一連の学習の過程に、「説明したいことが伝わるか」という観点で思考したり判断したりする場面を位置付ける。 ○学習したことを振り返り、学んだことを次の言語活動に生かせるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第3学年及び第4学年「B書くこと」の指導事項「ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。」
「ウ 書くこととすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」
を取り上げて指導するものである。

その際、「B書くこと」の言語活動例に示す「ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。」を通して指導することにより、指導の効果を高めた事例である。

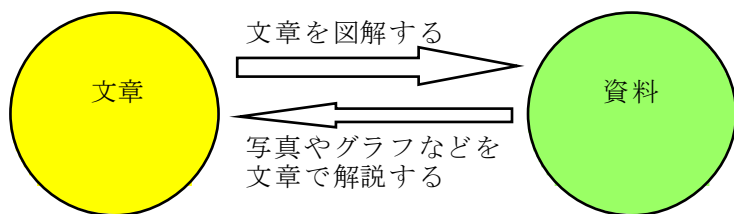
【言語活動の充実の工夫】

①「資料」を用いた説明の特徴

言語活動例に示す「資料」には、本や文章、図表、絵画、写真、具体物など、多様なものが含まれる。児童が日常生活の中で触れる説明の文章の多くは、何らかの資料を活用して書かれている。情報化社会においては、様々な資料を効果的に使うことが重要なものとなる。こうした言語活動を経験することは、日常生活における説明の能力を育むことにつながっていく。

資料を効果的に使って説明する文章を書く際には、次のような特徴に留意することが大切である。

- 資料は、説明する相手や目的に応じて収集・選定するものであること。
- 資料は、自分の考えを高めたり、文章の構成や記述をより効果的なものにするために用いられるものであること。
- 資料と文章とが下図のように、相互に密接に関連していること。



②児童の思考場面の位置付け

「資料」を効果的に用いることを通して、学習の過程に児童が思考する場面を適切に位置付けることが、指導のねらいを実現する上で重要である。本事例においては、例えば本時のように写真を選定する場面において、

- おもしろさが写真の「部分」に表れているのか、「全体」に表れているのかを考えてみよう。
 - おもしろさが「動き」や「変化」にあるなら、2枚を組み合わせてみよう。
- といった選定のヒントを提示し、自分の説明したいもののおもしろさがよく表れるような写真の選定ができるようにする。

このことによって、例えば、次のような写真の選択をしたり、目的に応じたものになるよう写真を撮り直したりする姿が見られた。

- ◇説明したいおもしろさが、細かい「部分」に表れているので、その部分をクローズアップした写真を選んだ。
- ◇「通常に比べてずっと大きい」といったおもしろさがよく表れるように、人と一緒に全体像を写してその大きさがよく分かるような写真を選んだ。
- ◇表側と裏側（外側と内側）の違いが意外でおもしろいので、2枚の写真を組み合わせて説明するようにした。

③資料と文章との相互の関係を強めるための記述の指導

資料と文章との相互関係を強めるために、写真を活用するための具体的な文例を示すことも有効である。

本事例でも以下のような文例を示して活用できるようにした。

【写真資料を活用する際に用いる文例】

- ・この写真は何を写したものでしょう。
- ・写真の上（下・左・右）の方を見て下さい。
- ・二つの写真を比べてみましょう。
- ・この写真から～ということが分かります。
- ・写真には、○と◇◇が写っています。
- ・写真に写っている○○は、実は◇◇なのです。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ②，④